

# 那須塩原市議会 「那須塩原クラブ」 行政視察報告書



視察期間：平成30年 11月19日（月）

I 視察日：11月19日（月）  
視察地：埼玉県新座市  
内 容：「新庁舎建設」について

II 視察日：11月19日（月）  
視察地：埼玉県北本市  
内 容：「新庁舎建設」について

参加議員： 伊藤 豊美      佐藤 一則      相馬 剛      齊藤 誠之  
                 山形 紀弘      森本 彰伸      中里 康寛

## 「新庁舎建設事業」について

視察地 埼玉県新座市

視察日 平成 30 年 11 月 19 日

報告者 佐藤 一則

### 【市勢】

#### 1. 新座の歩み

新座は、旧石器時代から古墳時代に至るまで 100 か所余りの遺跡があり、弥生時代には河川流域に水田が開かれ、古墳時代から奈良・平安時代には広く人の居住していたことが確認されています。江戸時代の初期に当時江戸幕府の老中だった川越藩主の松平伊豆守信綱が、江戸の生活用水として引かれていた玉川上水からの分水権を得て、野火止大地の開発のために野火止用水を開発したことは有名です。明治期には町村合併により、10 村が片山村に、また 4 村が大和田町となり、昭和 30 年 3 月に両町村が合併して新座町となりました。その後、都市化と共に人口の急増が始まり、昭和 45 年の国勢踏査により、人口が 7 万 7 千人余りとなり、埼玉県で 30 番目の市として誕生しました。

#### 2. 現況

埼玉県の最南端に位置し東は朝霞市、南は東京都練馬区、西東京市及び東久留米市、西は東京都清瀬市及び埼玉県所沢市、北は埼玉県入間郡三芳町及び志木市と行政境を有し、都心から 25 km 圏内に位置しています。市域の北側に東武東上線「志木駅」、中央部に J R 武蔵野線「新座駅」が開設されているほか、近隣としての南側に西武池袋線「ひばりヶ丘駅」、「清瀬駅」等の私鉄駅があり、市民等の通勤、通学の足として鉄道網が整備されています。

3. 市制施行 昭和 45 年 11 月 1 日  
(平成 29 年 7 月現在)

4. 面積 22.78 k m<sup>2</sup>

5. 人口 165,287 名

6. 世帯数 73,416 世帯

◎平均年齢 44.5 歳

◎平成 29 年度一般会計予算

449 億 4,800 万円

◎議員数 26 名

◎幼稚園数 11 園(全て私立)

◎保育園数 31 園(うち 25 園が私立)

◎小学校数 17 校

◎中学校数 8 校(うち 2 校が私立)

◎高校数 5 校(うち 2 校が私立)

◎大学数 3 校(全て私立)

#### 《庁舎建築概要》

所在地 新座市野火止一丁目 1 番 1 号

敷地面積 13,951 m<sup>2</sup>

建築面積 2,249 m<sup>2</sup>

延床面積 12,735 m<sup>2</sup>

階 数 地下 1 階 地上 5 階

構 造 基礎免震構造

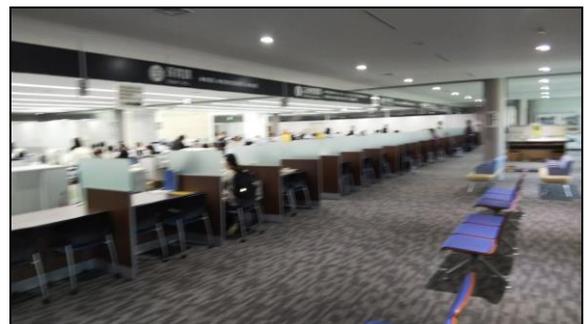
複合構造(鉄筋コンクリート造+鉄骨造)

工 期 平成 28. 1. 26~平成 29. 10. 31

建築工事費 44 億 8,626 万 6 千円

#### 【利用しやすく親しみやすい快適な庁舎】

- ▶来庁者の多い部署を低層階に配置しています。また、関連する部署を近接して配置しています。
- ▶来庁者エリアと執務室エリアが明確に区分された分かりやすい構成としています。
- ▶車椅子使用者や高齢者に配慮し、窓口は原則としてローカウンターとしています。
- ▶プライバシーに配慮し、カウンターに間仕切りを設置するほか、各階に個室の相談室を設けています。
- ▶誰もが見やすくわかりやすいサイン表示を行っています。



【エコシティ新座の実現に向けた環境にやさしい庁舎】

- ▶ 執務室内2ヶ所にエコボイドを設置して、自然採光を確保します。
- ▶ エコボイドにより、効率的に自然換気を行います。
- ▶ 建物西側は日差しの影響の大きいことから、水平にひさしと堅型のルーバーを設置しています。屋内への日差しを遮り、熱負荷とまぶしさを軽減できます。
- ▶ 議場上部の屋根を利用して、30kWの太陽光発電設備を設置しています。
- ▶ トイレの洗浄には雨水を利用しています

### 〔市民の生活を守る安全・安心な庁舎〕

- ▶ 大地震発生時でも、免震装置が建物に伝わる揺れを吸収することにより倒壊や損傷を防ぐ免震構造とします。
- ▶ 屋上に非常用発電機設備を設置し、災害時等の停電時にも重要な行政機能が停止することのないよう電源を供給します。発電に必要な燃料は、3日分を備蓄しています。
- ▶ 高架水槽による給水方式を採用し、地下受水槽と合わせて災害時に必要な3日分の飲料水及び雑用水を確保しています。
- ▶ 公共下水道が途絶した場合に備え、汚水を3日分貯留できる非常用排水層を設置しています。

### 〔連携と協働によるまちづくりを支える庁舎〕

- ▶ 各階ロビーの見やすい位置に、市政情報等を伝える掲示板を設置しています。
- ▶ 来庁者が市政に関する情報を閲覧できる市政情報コーナーを設けています。
- ▶ 市民に開かれた議会を実現するため、必要な施設や設備を整備しています。
  - ・ 議場には、資料を分かりやすく説明するための映像設備や、インターネット配信に必要な設備等を設置しています。
  - ・ 市議会を身近に感じられるよう、議場内の座席と傍聴席の高低差を小さくしています。
  - ・ 傍聴席には車椅子席や親子席を設ける

他、難聴者や高齢者に配慮して、補聴器を補助する磁気ループを設置しています。

- ・ 傍聴者等の待合・休憩スペースとして、傍聴席出入口に近接してロビーを設けています。

### 〔長期間にわたって使用できる効率的で経済的な庁舎〕

- ▶ 建物外周部にメンテナンスデッキを設けるなどメンテナンスに必要なスペースを十分に確保しています。
- ▶ 外装や内装は、機能性を重視したシンプルで効率的なデザインとしています。
- ▶ 建物内部を鉄骨造とすることにより、柱の本数を減らして大空間を確保しました。組織機構の変更に柔軟な対応が図れる執務空間となっています。
- ▶ 執務室内は、人事異動等があっても机を移動することなく、人や必要書類の移動で対応できるユニバーサルレイアウトとしています。



### 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県新座市

視察日 平成30年11月19日

報告者 相馬 剛

那須塩原市では、2015年3月新庁舎建設基本構想を策定し、2018年度基本計画策定予定、さらには、2020年度までに基本設計・実施設計を予定、2021年着工し、2023

年度完成を目指している。そうした状況から、本市の姉妹都市であり、本年新庁舎を開庁した新座市の視察を行った。

新座市新庁舎は、地上5階、地下1階で敷地面積：13,951㎡（4,220坪）

延床面積：12,735㎡（3,852坪）

構造：基礎免震構造

鉄筋コンクリート+鉄骨造

建設工事費：44億8,626万6千円

設計・監理：株式会社石本設計事務所

（選定方法は公募型プロポーザル）

施工：株式会社銭高組北関東支店

（選定方法は一般競争入札）である。

この庁舎建設にあたって特に考慮した点は次の5点だとしている。

- 1、利用しやすく親しみやすい快適な庁舎  
来庁エリアと執務エリアを区分、窓口はローカウンターとカウンター間仕切り設置、関連部署を近接配置。
- 2、環境にやさしい庁舎  
自然採光と換気のためのエコボイド設置、日差しの対応に水平ひさしと縦型ルーバーを設置。
- 3、安全・安心な庁舎  
地震の揺れを吸収する免振装置設置、非常用発電設備、高架水槽と地下受水槽により3日分の飲料水と雑用水を確保。
- 4、連帯と協働のまちづくりを支える庁舎  
市情報を伝える掲示板や情報コーナーを設置、開かれた議会の実現のため施設や設備の整備。
- 5、効率的で経済的な庁舎  
建物外周部にメンテナンススペースを確保、建物外部をRC、内部を鉄骨造にすることにより大空間を確保と備品の配置をユニバーサルレイアウトの実現。

本市と新座市では、立地の条件や市の面積に違いはあるが、人口規模は類似しており、新庁舎の基本方針や建物の構想は近いものがあり、参考にする部分は多くあると思う。特に建設費については、新座市の場合平米あたり35万2千円、本市の場合、

現在の試算では、平米あたり55万9千円としている。基本設計にあたる際には十分な考慮が必要であると思う。



### 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県新座市

視察日 平成30年11月19日

報告者 森本 彰伸

#### 【視察目的】

那須塩原市では、2023年の開庁を目指し新庁舎の建設計画が進められている。君島市長が就任し、オリンピック以降に先延ばしにになった新庁舎建設ではあるが、本当に市民に求められる庁舎にするため議会においては新庁舎検討特別委員会で新庁舎のあり方を検討している。また、市民からも多くの意見を聞き市民に求められる庁舎建設の為に計画が進む中、本市の姉妹都市でもあり、平成28年に新庁舎を45億円で建設した新座市の庁舎を視察することで、本市の新庁舎建設計画に良い影響を与えるべく、本視察を実施した。

#### 【新座市新庁舎建築概要】

所在地 新座市野火止一丁目1番1号

敷地面積 13,951㎡

延床面積 12,735㎡

階数 地下1階 地上5階

構造 基礎免震構造

混合構造（鉄筋コンクリート+鉄骨造）

工期 平成28年1月26日から

平成29年10月31日まで

建設工事費 44億8,626万6千円  
設計・監理 株式会社石本建築事務所本  
社  
施工 株式会社銭高組北関東支店



### 【新座市新庁舎の特長】

#### 1. (利用しやすく親しみやすい快適な庁舎)

来庁者の多い部署を低層階に配置し、関連する部署を近接して配置している。

来庁者エリアと執務室エリアが明確に区分された分かりやすい構成になっている。

車椅子使用者や高齢者に配慮し、窓口は原則としてローカウンターになっている。

プライバシーに配慮し、カウンターに間仕切り設置する他、各階に個別の相談室を設けている。

誰もが見やすく分かりやすいサイン表示を行なっている。

#### 2. (市民の生活を守る安全・安心な庁舎)

大地震発生時でも、免震装置が建物に伝わる揺れを吸収することにより倒壊や損傷を防ぐ免震構造を採用。

屋上に非常用発電設備を設置し、災害時等の停電時にも重要な行政機能が停止することのないよう電源を供給する。発電に必要な燃料は、3日分を備蓄している。

高架水槽による給水方式を採用し、地下受水槽と合わせて災害時に必

要な3日分の飲料水及び雑用水を確保している。

公共下水道が途絶した場合に備え、汚水を3日分貯留できる非常用排水槽を設置している。

#### 3. (連帯と協働によるまちづくりを支える庁舎)

各階ロビーの見やすい位置に、市政情報等を伝える掲示板を設置している。

来庁者が市政に関する情報を閲覧できる市政情報コーナーを設けている。

市民に開かれた議会を実現するため、必要な施設や設備を整備している。

議場には、資料を分かりやすく説明するための映像設備や、インターネット配信に必要な設備等を設置している。

市議会を身近に感じられるよう、議場内の議席と傍聴席の高低差を小さくしている。

傍聴席には車椅子席や親子席を設けるほか、難聴者や高齢者に配慮して、補聴器を補助する磁気ループを設置している。

傍聴者等の待合・休憩スペースとして、傍聴席出入口に近接してロビーを設けている。

#### 4. (長期間にわたって使用できる効率的で経済的な庁舎)

建物外周部にメンテナンスデッキを設けるなど、メンテナンスに必要なスペースを十分に確保している。

外装や内装は、機能性を重視したシンプルで効率的なデザインとしている。

建物内部を鉄骨造とすることにより、柱の本数を減らして大空間を確保した。組織機構の変更に柔軟な対応が図れる執務空間となってい

る。

執務室内は、人事異動等があっても机を移動することなく、人や必要書類の移動で対応できるユニバーサルレイアウトとしている。

#### 5. (エコシティ新座の実現に向けた環境にやさしい庁舎)

執務室内 2 か所にエコボイドを設置して、自然採光を確保した。

エコボイドにより、効率的に自然換気を行う。

建物西側は日差しの影響が大きいことから、水平のひさしと縦型のルーバーを設置している。屋内への日差しを遮り、熱負荷とまぶしさを軽減できる。

議場上部の屋根を利用して、30kwの太陽光発電設備を設置している。

トイレの洗浄には雨水を利用している。

#### 【所感】

新座市の新庁舎は延床面積が本市の計画より約5,000㎡小さいことや建設のタイミングにより資材が安かったことなど、要因はあるが、総建築費が本市の半分以下の約45億である。設備においても環境や市民の利便性などに深く考慮した設計になっており学ぶべき点が多いと感じた。資材の値段など本市の努力の及ばない要因は多くあるものの、庁舎を運営していく中では、家賃収入を得るなどより効率的な方法があるのではないかと思う。今後、本市の新庁舎の計画にあたっては本会派より代表を通して提案していくが、今回視察してきた新座市の事例も参考に進めて頂くことを望む。



#### 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県新座市

視察日 平成30年11月19日

報告者 伊藤 豊美

平成30年11月19日、埼玉県新座市へ行政視察に行ってきました。視察内容は、新座市の新庁舎建設事業について、以下、報告いたします。

#### 【利用しやすく親しみやすい快適な庁舎】

来庁者の多い部署を低層階に配置し、関連する部署を近接して配置し、来庁者エリアと執務室エリアが明確に区分された分かりやすい構成とした。

#### 【エコシティ新座の実現に向けた環境にやさしい庁舎】

執務室内2カ所にエコボイドを設置して、自然採光を確保し、効率的に自然換気を行っている。議場上部の屋根を利用して30KWの太陽光発電設備を設置し、トイレの洗浄には雨水を利用している。

#### 【市民の生活を守る安全・安心な庁舎】

大地震発生時でも、免振装置が建物に伝わる揺れを吸収することにより倒壊や損傷を防ぐ免震構造としている。

屋上に非常用発電設備を設置し災害時等の停電にも重要な行政機能が停止することのないよう電源を供給する。発電に必要な燃料は、3日分を備蓄している。

高架水槽による給水方式を採用し、「地下受水槽」と合わせて災害時に必要な3日分の飲料水及び雑用水を確保してい

る。

公共下水道が途絶えた場合に備え、汚水を3日分貯留できる非常用排水槽を設置している。

### 【連帯と協働によるまちづくり支える庁舎】

各階ロビーの見やすい位置に、市政情報等を伝える掲示板を設置している。

来庁者が市政に関する情報を閲覧できる市政情報コーナーを設けている。

市民に開かれた議会を実現するため、必要な施設や設備を整備している。

### 【長期間にわたって使用できる効率的で経済的な庁舎】

建物外周部にメンテナンスデッキを設けるなど、メンテナンスに必要なスペースを十分確保する。外装や内装は、機能性を重視したシンプルで効率的なデザイン。

建物内部を鉄骨造とすることにより、柱の本数を減らして大空間となっている。執務室内は、人事異動があっても机を移動することなく、人や必要書類の移動で対応できるユニバーサルレイアウトとしている。

視察調査事項の説明の後、新庁舎見学し、質疑応答を行いました。

敷地面積 13,951 m<sup>2</sup>

建築面積 12,735 m<sup>2</sup>

階数 地下1階 地上5階

構造 基礎免震構造  
混合構造(鉄筋コンクリート造+鉄骨造)

工期 平成28年1月26日から平成29年10月31日まで

建設工事費 44億8,626万6千円

設計・監理 株式会社石本建築事務所本社

・一方那須塩原市庁舎建設の計画は

敷地面積 30,000 m<sup>2</sup>

建築面積 17,000 m<sup>2</sup>

構造 免震構造

工期 2018年度基本計画から始ま

り 2023年度開庁予定

建設工事費 97億7,520万円(外構工事費5億円含む)

上記が予定となっております。



### 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県北本市

視察日 平成30年11月19日

報告者 齊藤誠之

北本市役所にて、新庁舎建設にかかわる説明を頂いた。

この庁舎は隣に子ども利用できる児童館を併設しており、民間業者に委託している。

また文化センターや中学校も隣接しており、機能的に連携が取れる配置となっていた。コンセプトは市民交流の軸、安全、安心の軸。防災面でも目の前にみどりの広場を設け、そこで災害対応活動ができる仕組みとなっている。

議場には、傍聴席と議場の間に強化ガラスが立ててあり、理由は傍聴席と議場の最後列の席の間が狭いとこのことの原因であった。ちょっと市民との距離を感じさせざるを得ない作りに驚きました。

これまでも北本市議会では、新庁舎にかかわる決議を5本議決し要望しており、最終的に議会から「新庁舎の事業費見直しに関する要望書」を提出している。

結果として、事業費の縮減を検討し、新庁舎建設工事費、備品購入費、移転費等を併せて、39億9千万円の概算事業費を約31億9千万円に見直した為、新たに調達したものや、再利用できるものの分別が行われ、現在の新庁舎でも随所に利活用されていた。

特に、庁舎内の資材では塩化ビニルタ

イルの使用により、また壁面においては、石膏ボードに直接クロスが貼られていたため、少しの接触でも汚れが目立つようになっていた。

建てた瞬間からランニングコストは発生する。その部分も念頭に置き、壊れない建物を造る理屈はわかるが、傷まない建物はない、どこに重点を置くかで、その後の庁舎の在り方さえ変わってしまうことはあると感じた。実際床暖房を敷いている部分では何らかの理由で床の色が変色していたが修繕がかけられない状況にあるという。

本市にもいっても設計前の議論が行われている。市民に開かれた庁舎、まちの中核機関としての必要性とその費用のかけ方は、人口減少時代、後世への負担を考え議論されなければならないと改めて感じさせていただいた。



### 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県北本市

視察日 平成 30 年 11 月 19 日

報告者 山形紀弘

埼玉県北本市は緑にかこまれた健康な文化都市をスローガンにしています。人口は66,742人で市職員数は396人(臨職含706人)。埼玉県の中央の位置にあります。新庁舎は平成27年3月に完成されて敷地面積13,511.14㎡延床面積11,147.90㎡地上4階建てで高さは19.89mで景観を損なわないように20m以下に抑えております。児童館・防災倉庫が隣

接しており、総工費36億3,782万円となっております。市民の要望を聞いて児童館も併設しており、明るく賑わいのある市役所となり、夏休み中は駐車場が大変混雑するそうです。昭和59年庁舎建設基金条例から始まり、段階を経て基本構想を作り、住民満足度及び執務環境の実態調査も行い、平成24年建設工事着工して3年で完成した。コンセプト(みどりに囲まれた市民をむすぶやさしい低層庁舎)災害に強い新庁舎・地域で考える配置計画低層の庁舎による周辺環境への調和・明快な構成により市民の利便性や効率性に配慮した平面設計である。配置として隣接する文化センター・中学校と機能的に連携しており児童館、文化センターを結んでいる。(市民交流の軸)避難施設である中学校する(安心・安全の軸)も考えています。防災対策として物資輸送拠点のヘリポートを考慮・ボランティア活動拠点などの場所の設置を考えている。フロア配置のコンセプトはエコボイドを中心とした平面配置・柱が少ないオープンフロア・市民の利用頻度が高い部門は1・2階に配置・3階には議会スペースを確保している。窓口オフィスレイアウトは3分割されており窓口ゾーン・執務ゾーン・執務サポートゾーンを設けて業務の効率化を図っている。省エネ・環境配慮としてはエコボイドによる採光、通風、高断熱。太陽光発電・蓄電池装置・LED照明使用。節水衛生器具を設置、外部、外構はみどりの広場、緑化駐車場、透水舗装。コスト削減のために、仮設庁舎を造らず、既存什器の一部を使用しております。建設コストの抑制としてはシンプルでコンパクトなデザイン・鉄骨造の採用・耐震構造(免震装置を用いない)地下階を作らない・低層建築などで実態に即した計画+シンプルでコンパクトな庁舎となりました。

市議会への対応として、庁舎(等)建

設特別委員会を設置し、各会派より 11 名。定例会ごと 1 回程度の委員会を開催して、経過報告、議案内容の事前説明。建設位置などの決定まではかなりの回数を開催されて平成 9 年度から平成 26 年度までに計 62 回開催されました。また市民参画として基本計画策定時には市民説明会 10 箇所述べ 194 名・団体説明 5 団体述べ 78 名・パブリックコメント 8 名。基本設計策定時には基本設計検討会議では計 40 名・市民説明会 9 箇所述べ 105 名・パブリックコメント 6 名。また、出前講座 36 名・タウンミーティング 29 名を実施した中で庁舎建設自体への反対は少なかったが事業費について意見は多かったそうです。

現在の課題として一般的な事務所ビルの内壁と同様な仕上げの工事費は安いですが、キズや汚れが目立ち清掃がほとんどできない。0A フロアに使用されているタイルカーペットは泥汚れ、水濡れが多い部署、エリアでは維持管理に注意。近年のビル空調システムは電気・機械により一年中制御が必要なため、旧庁舎の窓開け換気・通風＋エアコンに比べて電気代、メンテナンス費用が増大しているそうです。

最後に議会のフロアでは傍聴席前のガラス板の透明な壁が気になった。議場は明るく移動式の椅子は便利である。コスト削減のために工夫しているが免震装置を用いないので心配である。ガラス張りの庁舎は非常に開かれたスペースであり、庁舎前の緑の公園は非常に景観が良く市民には親しみが湧くと感じた。



## 「新庁舎建設」について

視察地 埼玉県北本市

視察日 平成 30 年 11 月 19 日

報告者 中里 康寛

新庁舎建設に伴い調査研究のため、会派において埼玉県北本市へ伺った。

北本市の概要について、人口は 66,742 人、面積 19.82  $\text{m}^2$ 、新庁舎に児童館が併設されている北本市の新庁舎は平成 27 年 3 月末に完成した。新庁舎と児童館の概要について、それぞれ説明する。

新庁舎の概要について、敷地面積 13,511  $\text{m}^2$ 、延べ床面積 11,148  $\text{m}^2$  (庁舎 9,594  $\text{m}^2$ )、構造は鉄骨造 (耐震構造)、地上 3 階建、最高高さは 19.89 m、併設施設は児童館・防災倉庫、総工費 36 億 3,782 万円 (庁舎分 31 億 1,950 万円)。

児童館の概要について、敷地面積、構造、階数においては新庁舎概要と同様、延べ床面積 1,439  $\text{m}^2$ 、用途は図書館・児童センター、工事費 5 億円、なお児童館は指定管理者制度を採用しており、請負者はシダックスである。新庁舎建設に併せて、市民に喜ばれる施設を建設したい思いから、児童館を併設した。児童館を併設したメリットは、明るく賑わいのある市役所となった。デメリットは、夏休み中の駐車場が大変混雑する。

主なコンセプトについて、①住宅街の中に庁舎があるため、威圧感を無くすために工夫したことは、3 m 程度セットバックし、低層庁舎とした。②災害時について、庁舎敷地の隣には、文化センター及び中学校があり、それぞれの施設に役割を分担し、防災拠点の強化を図った。庁舎敷地は災害対策本部 (ボランティア活動拠点、帰宅難民者の一時避難場所、自衛隊や消防の活動拠点を含む) とし、文化センターは支援物資集積拠点施設

としての役割、中学校の校庭を物資輸送拠点（場外飛行場ヘリポート）とした。そのほか、新庁舎は72時間稼働の自家発電設備、4日分の貯水槽、7日分の緊急排水槽を完備する。

庁舎の工事費の詳細について、

建築工事	16億5,800万円
電気設備工事	4億7,100万円
機械設備工事	4億8,600万円
昇降機設備工事	3,500万円
太陽光発電設備工事	1,900万円
小計	26億6,900万円
解体工事	8,300万円
外構工事	3億1,700万円
中計	30億6,900万円
その他、児童館などの付帯施設について、	
小計	9億4,500万円
合計	40億1,400万円

新庁舎における現在の課題等は、①内壁の仕上げ（石膏ボード＋白色塗装）は工事費が安いですが、キズ、汚れが目立ち、清掃はできない。②OAフロアに使われているタイルカーペットは、泥汚れ、水濡れ多い部署（水道・下水道等の建設系）、エリアでは維持管理に注意。③ビル空調システムは、電気・機械により一年中制御が必要なため、旧庁舎の窓開け管理・通風＋エアコンに比べて電気代、メンテナンス費用が増大する。④各種機器装置にメーカー保証が切れた後の故障について、発生頻度、修理費用等が計り知れない。⑤植栽、緑化駐車場等が多く配置され、水あげ、雑草等管理が不十分となっている。

所見について、人口減少期の中における新庁舎を建設は、庁舎の維持管理費について十分に考慮し、市民への配慮も必要であると考えます。これは、省いてコスト抑制に努めるという考え方ではなく、例えば家賃などの収入を得て、維持管理費に充てる財源をつくる。このような考え方も取り入れ、市民への負担を減らすことも必要ではないかと考える。

